

主要国の野菜の生産動向等

調査情報部

1 中国

日本が輸入するにんじんの約9割は中国産であることから、今月号では、中国のにんじんの生産動向等を主産地の山東省を中心に紹介する。

(1) 日本における中国産にんじんの位置付け

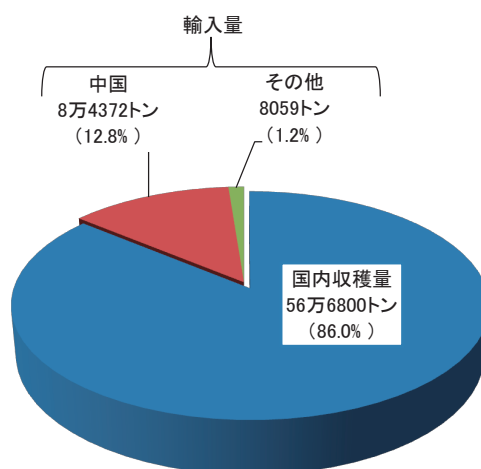
2016年の日本のにんじん供給量の8割以上は国産品であり、輸入品は1割強である(図1)。輸入品はほぼ全量が生鮮品であり、その約9割が中国産で、わずかにベトナムや豪州からも輸入している。

ここ数年の生鮮にんじんの輸入量は減少傾向で推移し、2015年には約7万トンまで落ち込んだが、2016年は前年を大幅に上回る9万2000トンとなった(図2)。2017年は前年をやや下回ったものの、依

然として8万トンを超える8万7950トンとなった。

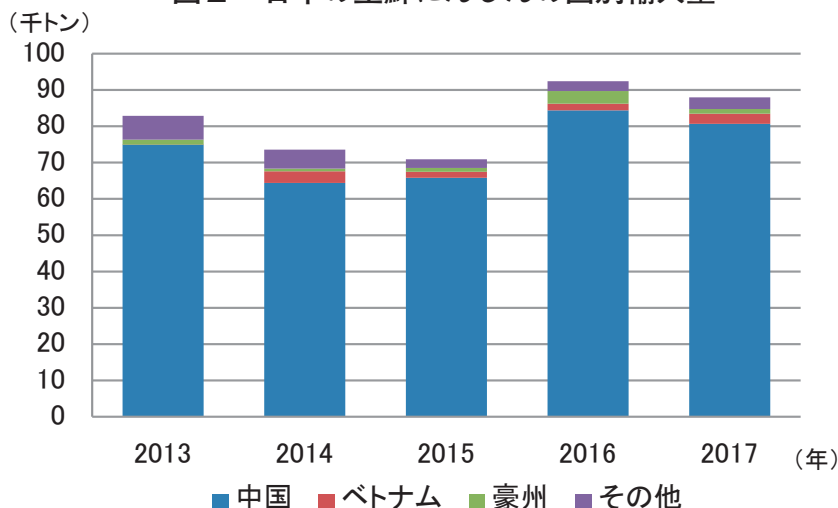
中国産にんじんの輸入量を月別に見ると、年間を通じて輸入されているものの、1月および2月は少ない傾向にある(図3)。また、2016年9~11月は、国内の天候不順の影響を受けて輸入量が増加した。輸入価格は、2016年5月に高騰したが、これは中国国内の価格高騰の影響であり、その後、中国国内の供給量の回復に伴い、価格が落ち着いたことから、輸入価格も比較的安定的に推移したとみられる。

図1 日本のにんじん供給量 (2016年)



資料：農畜産業振興機構「ベジ探」(原資料：財務省「貿易統計」、農林水産省「野菜生産出荷統計」)

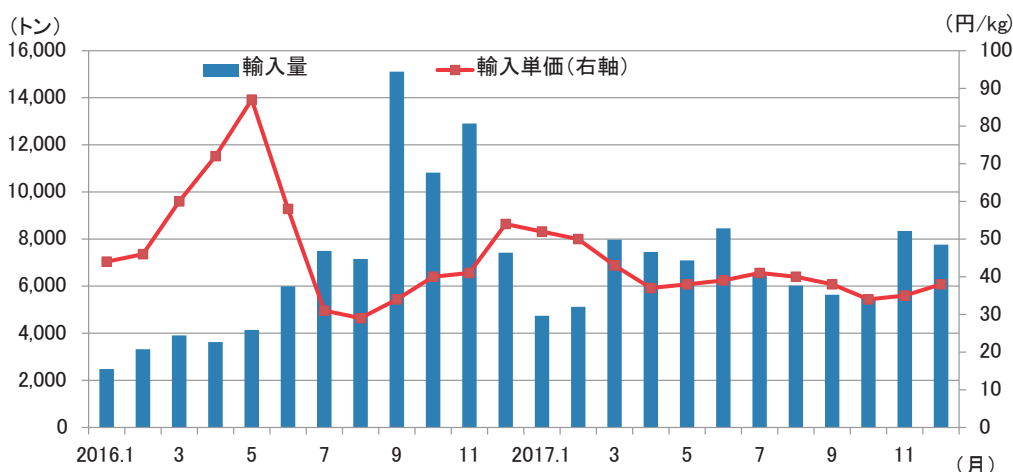
図2 日本の生鮮にんじんの国別輸入量



資料：農畜産業振興機構「ベジ探」(原資料：財務省「貿易統計」)

注：2016年までは、HSコードは070610000(にんじん及びかぶ)を、2017年からはHSコード070610010(にんじん)を使用。

図3 中国産生鮮にんじんの月別輸入量および輸入単価



資料：農畜産業振興機構「ベジ探」(原資料：財務省「貿易統計」)

本稿中の為替レートは1元=17円(2018年2月末日TTS相場：17.28円)を使用した。

(2) 生産動向

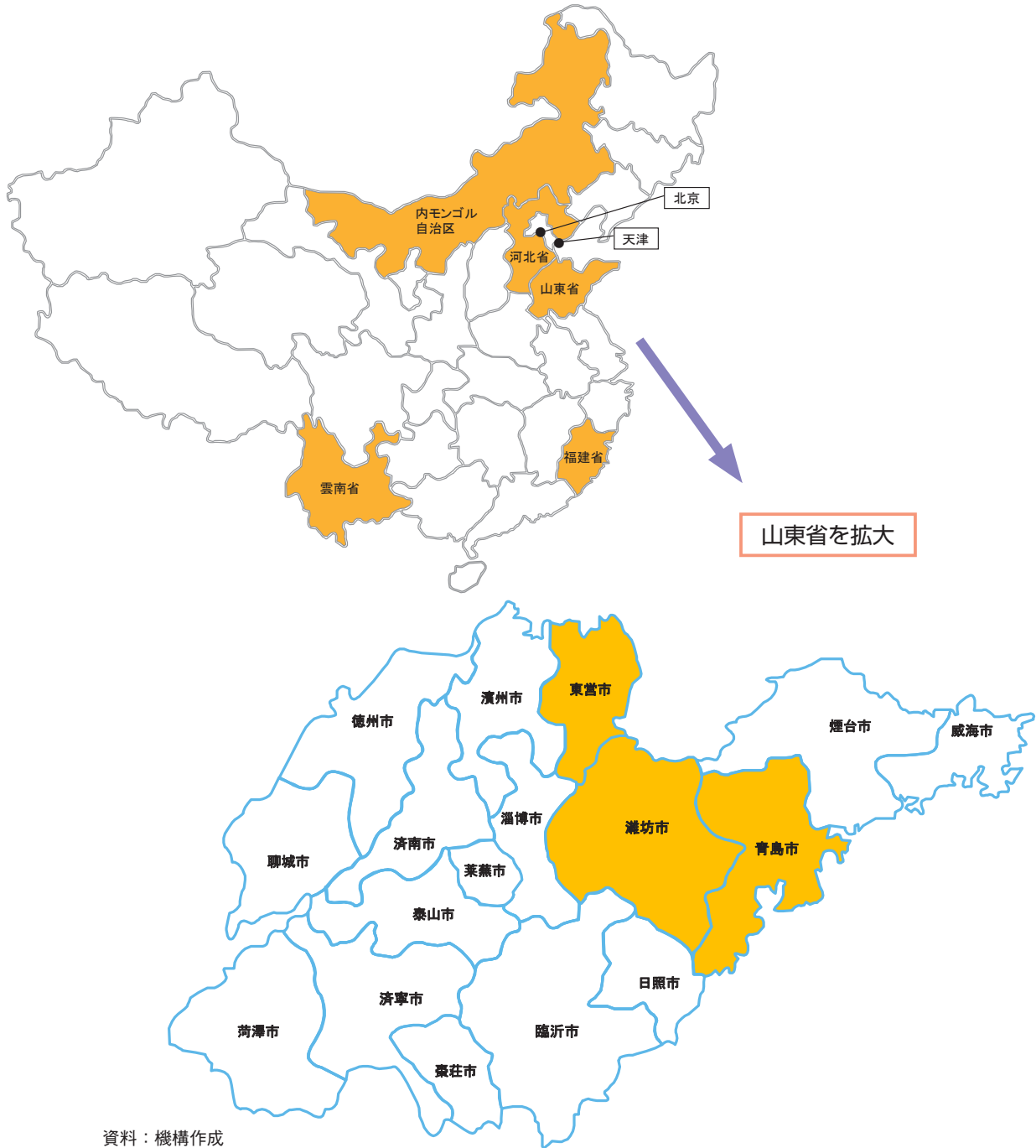
中国のにんじんはさまざまな地域で生産されており、全体で45万ヘクタール程度作付けされている。とりわけ生産が盛んな地域は、山東省、河北省、内モンゴル自治区、福建省、雲南省などであり(図4)、今回紹介する山東省は、全体の1割程度を

占めている。

山東省におけるにんじんの主産地は、東営市(注1)、濰坊市、青島市であり、これら三つの市だけで、同省の作付面積全体の85%を占める。

注1：中国では、大きい行政区分から順に、「省級(省、直轄市など)」、「地級(地級市、自治州など)」、「県級(県、県級市、市轄区など)」などとなっており、東営市、濰坊市、青島市は地級市である。

図4 中国のにんじん主産地

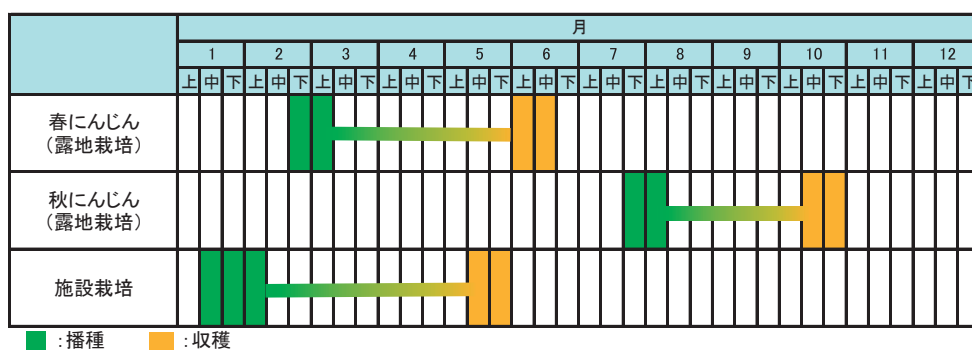


資料：機構作成

山東省の作付面積の9割は露地栽培で、1割は施設栽培である。露地栽培には、春にんじんと秋にんじんの二つの作型があり、春にんじんは、2月下旬から3月上旬に播種し、6月上中旬に収穫するが、秋にんじんは、7月下旬から8月上旬に播種し、10月中下旬に収穫する(図5)。また、施設栽培は、1月中旬から2月上旬に播種し、

5月中下旬に収穫する。主な品種は、「孟徳爾808」、「精鋭988」、「紅秀」、「新黒田五寸」などである。このうち、2013年に山東省に導入された「孟徳爾808」は、色合いが良く、分岐せずに外観が良いことに加え、程よい甘みを持つなどの特徴があることから、仕入れ業者や加工業者からの評価が高く、人気のある品種の一つである。

図5 山東省のにんじんの生育ステージ



資料：聞き取りを基に機構作成

注：本図は、播種、収穫が最も集中する時期を表しており、それぞれの作業は前後の時期にも実際には行われているとみられる。

近年の生産動向を見ると、作付面積は3万2000ヘクタール前後、収穫量は240万トン前後、単収（10アール当たり収量）は7.5トン前後で推移していたが、2017年は、作付面積が前年を大幅に上回る4万ヘクタールと見込まれることに伴い、収穫

量も前年を大幅に上回る295万トンと見込まれている。山東省のにんじんの作付面積は、主に相場の影響を受けるため、2017年の増加は、前年の4月から6月のにんじん価格が高かったことなどが要因と考えられる（表1）。

表1 山東省のにんじんの作付面積、収穫量および単収の推移

年	作付面積（千ha）		収穫量（千トン）		単収（トン／10a）	
		前年比（増減率）		前年比（増減率）		前年比（増減率）
2014	31.3	—	2,380	—	7.6	—
2015	33.3	6.4%	2,500	5.0%	7.5	▲ 1.3%
2016	32.6	▲ 2.1%	2,400	▲ 4.0%	7.4	▲ 1.3%
2017	40.0	22.7%	2,950	22.9%	7.4	0.0%

資料：山東省農業庁種植業管理処などへの聞き取りを基に機構作成

注：2017年は見込み。

(3) 生産コスト

山東省の10アール当たり生産コストの動向を見ると、2017年は6060元（10万3020円、2014年比6.3%増）と、かなり増加した（表2）。項目別に見ると、近年の中国の野菜経営で常態化している土地代と人件費の増加が見られる一方で、種苗費は大幅に減少している。種苗費は、潍坊市で最も多く作付けされる「孟徳爾808」

の価格であるが、これまで「孟徳爾808」の種苗は単価が高かったことから、必要量よりも少ない量を播種する農家が多く、収量の低下を招いた。これにより、農家の中には、「孟徳爾808」は単収が低いと誤解した者もいたため、種苗会社は農家の購入を促すため種苗価格を引き下げたことから、2014年と比べ40%近い減少となった。

表2 山東省のにんじんの10アール当たり生産コスト（山東省濰坊市）

項目	2014年（元／10a）		2017年（元／10a）		2017年／ 2014年比 （増減率）
		円換算 （円／10a）		円換算 （円／10a）	
土地代	1,500	25,500	1,950	33,150	30.0%
種苗費	2,025	34,425	1,260	21,420	▲ 37.8%
肥料農薬費	750	12,750	825	14,025	10.0%
資材費	150	2,550	150	2,550	0.0%
農機具費	150	2,550	150	2,550	0.0%
人件費	1,050	17,850	1,650	28,050	57.1%
その他	75	1,275	75	1,275	0.0%
合計	5,700	96,900	6,060	103,020	6.3%

資料：山東省農業庁種植業管理处、山東省濰坊市寿光市農業局などへの聞き取りを基に機構作成

注1：四捨五入や為替換算の関係から、各項目間において誤差が生じることがある。

注2：2017年は見込み。

注3：種苗費は濰坊市で最も作付けされる「孟徳爾808」の価格。

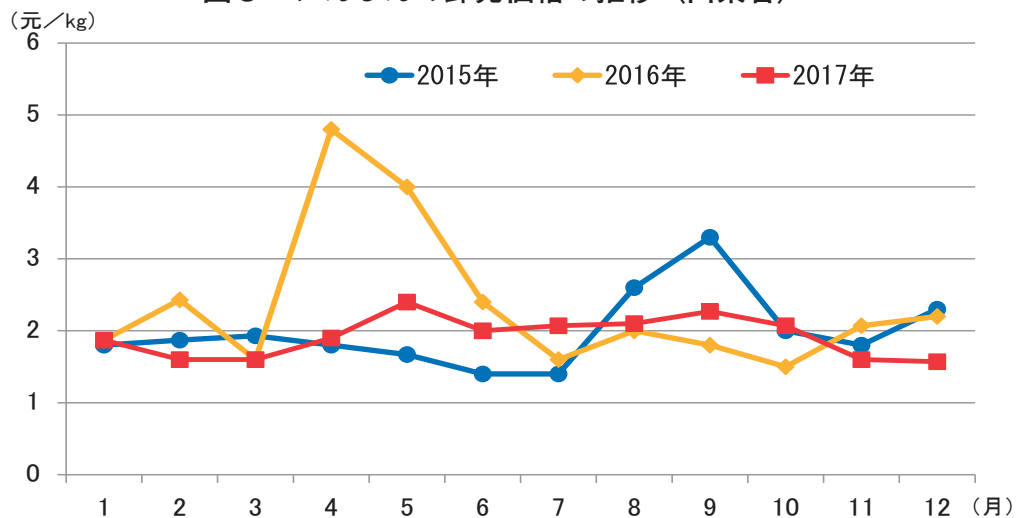
（4） 価格動向

山東省の卸売価格の傾向は、年によって異なる。基本的には、収穫期以外は、冷蔵貯蔵されたにんじんが供給されるが、特に2016年4月は、貯蔵量がほとんどなくなったため、価格が急騰した。その後、春

にんじんが市場に出回るようになり、価格は落ち着いて推移している（図6）。

なお、施設栽培されたにんじんは、数量に限られることなどから、卸売市場を経由せず、量販店などに直接販売されることが多い。

図6 にんじんの卸売価格の推移（山東省）



資料：中国蔬菜網

注：山東済南七里堡野菜総合卸売市場の価格。

（5） 国内向け出荷動向

山東省で収穫されたにんじんの約9割は、国内に仕向けられており、主な出荷先は、北京、南京、上海、広州などである。

にんじんは中国でよく食されており、炒めものやスープなどの調理法がある。食感が良いだけでなく、高い栄養価を持ち、健康に良いと考えられることから、消費量は近年、増加している。

(6) 輸出動向

にんじん輸出は生鮮が中心である。近年の生鮮にんじんの輸出量は増加傾向で推移しており、2017年は前年をわずかに上回る71万8647トンとなった。輸出先別にみると、ベトナムが増加傾向にあり、2017年には、それまで最も多かった韓国を上回った（図7）。

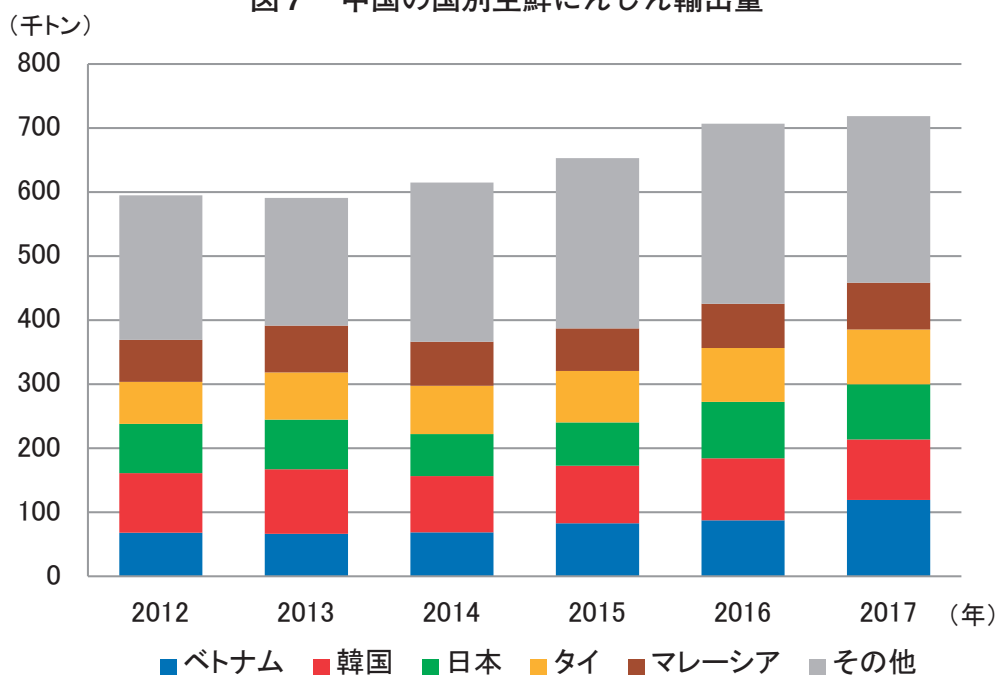
2017年の日本向けは第3位で、韓国に次いで多い。日本へは、主に山東省と福建省から輸出されており、山東省産は、国内仕向けが中心とはいえ、輸出向けの主産地でもある。青島市や潍坊市には、輸出向け加工工場が多く所在しており、特に青島市菜西市^{さいせい}（注2）は輸出量が多い地域である。福建省の収穫期は1～3月のため、春先に輸出されるのは主に福建省産で、それ以降のものは山東省産が多い。

注2：菜西市は山東省青島市の県級市である。



写真 北京市内のスーパーで販売されているにんじん

図7 中国の国別生鮮にんじん輸出量



資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコードは07061000。

2 米国

米国からは、日本への輸出が多いブロッコリー、レタス、セルリー（セロリ）（以下「セルリー」という）について、それらの主産地であるカリフォルニア州の生産動向などを紹介する。

(1) ブロッコリー、レタス、セルリーの生産動向

ア ブロッコリー

(ア) 作況

現地報道によると、1月下旬から2月中旬にかけて、ブロッコリーの需要と供給はともに堅調に推移し、価格は低調に推移した。

以下、本稿中の為替レートは、1米ドル＝108円（2018年2月末日T T S相場：108.37円）を使用した。

(イ) 生産者価格

2017年12月の生鮮ブロッコリーの生産者価格は、前年同月比15.6%高の1キログラム当たり0.89米ドル（96円）となった（表1）。

図1 カリフォルニア州の地図



資料：機構作成

表1 全米の生鮮ブロッコリーの生産者価格

（単位：米ドル/kg）

	2016年	2017年											
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
生産者価格	0.77	1.23	1.19	1.56	2.11	1.82	1.11	1.12	1.37	1.81	1.47	1.21	0.89

資料：米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）

(ウ) 対日輸出動向

2017年12月のブロッコリーの対日輸出量は、前年同月比30.6%減の1177トン

となった(表2)。また、輸出単価は同7.0%安の1キログラム当たり1.20米ドル(130円)であった。

表2 米国产ブロッコリーの対日輸出量および輸出額

(単位：トン、千米ドル、米ドル/kg)

	2016年	2017年											
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
輸出量	1,696	1,271	1,027	559	723	1,528	1,960	1,295	1,995	1,221	1,065	1,486	1,177
輸出額	2,192	1,676	1,377	797	905	2,234	2,675	1,694	2,517	1,587	1,156	1,784	1,407
単価	1.29	1.32	1.34	1.43	1.25	1.46	1.36	1.31	1.26	1.30	1.09	1.20	1.20

資料：米国農務省海外農業局 (USDA/FAS GATS Database)

(エ) 東京都中央卸売市場の入荷量および価格

2017年12月の東京都中央卸売市場の米国产ブロッコリーの入荷量は、前年同月比42.7%減の82トンであった(表3)。また、卸売価格は、同17.2%高の1キロ

グラム当たり368円であった。なお、同月に同市場で最も入荷量が多かったのは埼玉産で、入荷量は同6.9%減の433トン、卸売価格は米国产を大幅に上回る同538円であった。

表3 東京都中央卸売市場の米国产ブロッコリーの入荷量および平均卸売価格

(単位：トン、円/kg)

	2016年	2017年											
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
入荷量	143	69	39	41	41	65	90	94	97	102	75	55	82
卸売価格	314	304	319	252	324	340	337	308	340	364	344	394	368

資料：東京都中央卸売市場

イ レタス

(ア) 作況

現地報道によると、1月下旬以降、ロメインレタスは安値傾向で推移するも、供給量は堅調に推移しており、品質も平均的なレベルを維持している。

結球レタスは、需要は例年並みも、2月以降の気温の上昇を受けて供給量は増加傾向で推移しており、価格は安値で推移している。

2月に入り、グリーンリーフレタスの品質は良好も、供給が需要を上回っていることから価格は低調に推移している。

(イ) 生産者価格

2017年12月の結球レタスの生産者価格は、前年同月と同じ1キログラム当たり0.67米ドル(72円)となった(表4)。

表4 全米の結球レタスの生産者価格

(単位：米ドル/kg)

	2016年	2017年											
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
生産者価格	0.67	0.64	1.13	1.09	1.82	0.58	0.50	0.56	0.54	0.70	0.93	0.51	0.67

資料：米国農務省全国農業統計局 (USDA/NASS)

(ウ) 対日輸出動向

2017年12月の結球レタスの対日輸出量は、638トンと、前年同月を173.8%上回った(表5)。輸出単価は同7.6%安の1キログラム当たり1.10米ドル(119円)

であった。また、結球レタス以外のレタスの対日輸出量は、同465.4%増の441トン、輸出単価は同42.3%安の同1.91米ドル(206円)となった(表6)。

表5 米国産レタスの対日輸出量および輸出額(結球レタス)

(単位: トン、千米ドル、米ドル/kg)

	2016年	2017年											
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
輸出量	233	150	103	64	65	181	137	279	743	837	163	449	638
輸出額	277	188	111	85	67	178	159	291	710	865	146	531	699
単価	1.19	1.25	1.08	1.34	1.03	0.98	1.16	1.04	0.96	1.03	0.90	1.18	1.10

資料: 米国農務省海外農業局 (USDA/FAS GATS Database)

表6 米国産レタスの対日輸出量および輸出額(結球レタス以外)

(単位: トン、千米ドル、米ドル/kg)

	2016年	2017年											
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
輸出量	78	4	5	75	60	32	1	0	29	12	2	564	441
輸出額	258	16	18	87	81	30	5	0	85	37	8	990	844
単価	3.31	4.32	3.46	1.16	1.35	0.94	5.00	0.00	2.98	3.11	3.48	1.76	1.91

資料: 米国農務省海外農業局 (USDA/FAS GATS Database)

(エ) 東京都中央卸売市場の入荷量および価格

2017年12月の東京都中央卸売市場の結球レタス以外の米国産レタス(ロメインレタス、フリルレタスなど)の入荷量は、前年同月比20.0%減の0.4トンであった(表7)。また、卸売価格は、前年同月比

0.4%安の1キログラム当たり516円であった。なお、同月に同市場で最も入荷量が多かった結球レタス以外のレタスは香川県産で、入荷量は同51.0%増の74トン、卸売価格は米国産を大幅に下回る同249円であった。

表7 東京都中央卸売市場の米国産レタスの入荷量および平均卸売価格(結球レタス以外)

(単位: トン、円/kg)

	2016年	2017年											
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
入荷量	0.5	0.2	0.5	0.6	-	0.2	0.4	0.2	1.0	5.5	1.6	0.4	0.4
卸売価格	518	518	518	518	-	290	518	119	137	351	111	518	516

資料: 東京都中央卸売市場

ウ セルリー

(ア) 作況

現地報道によると、1月下旬以降、セルリー市場は堅調な供給のもと、安定的に推移しており、品質も良好である。

(イ) 生産者価格

2017年12月のセルリーの生産者価格は、前年同月比36.8%高の1キログラム当たり0.52米ドル（56円）となった（表8）。

表8 全米の生鮮セルリーの生産者価格

(単位：米ドル/kg)

	2016年	2017年											
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
生産者価格	0.38	0.39	0.34	0.54	0.87	1.76	0.93	0.61	0.39	0.38	0.42	0.65	0.52

資料：米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）

(ウ) 対日輸出動向

2017年12月のセルリーの対日輸出量は、前年同月比14.2%高の492トンで、

輸出単価は同16.4%安の1キログラム当たり0.61米ドル（66円）であった（表9）。

表9 米国产セルリーの対日輸出量および輸出額

(単位：トン、千米ドル、米ドル/kg)

	2016年	2017年											
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
輸出量	431	696	534	797	554	480	526	486	607	371	465	540	492
輸出額	315	444	340	439	371	469	517	325	397	236	288	338	300
単価	0.73	0.64	0.64	0.55	0.67	0.98	0.98	0.67	0.65	0.64	0.62	0.63	0.61

資料：米国農務省海外農業局（USDA/FAS GATS Database）

(エ) 東京都中央卸売市場の入荷量および価格

2017年12月の東京都中央卸売市場の米国产セルリーの入荷量は、前年同月比8.1%減の34トンで、卸売価格は同6.6%

高の1キログラム当たり226円であった（表10）。なお、同月に同市場で最も入荷量が多かったセルリーは静岡産で、入荷量は同10.0%減の423トン、卸売価格は米国产を大幅に上回る同298円であった。

表10 東京都中央卸売市場の米国产セルリーの入荷量および平均卸売価格

(単位：トン、円/kg)

	2016年	2017年											
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
入荷量	37	27	27	33	32	24	9	23	24	26	24	25	34
卸売価格	212	202	204	204	213	242	398	245	231	225	210	220	226

資料：東京都中央卸売市場